F-グリッドの番号

原案: monkukui

問題文: monkukui

解説: monkukui

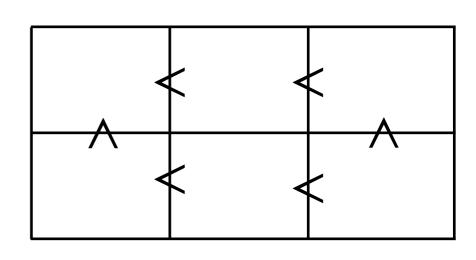
問題概要

- 1 から $2 \times n$ までの整数をグリッドに書き込む.
- ・以下の二つのルールを守る必要がある.
 - ① 図のような不等式を満たす
 - ② 隣り合う整数の差を k 以下にする
- ・ 整数の書き込み方は全部で何通りか?

[制約]

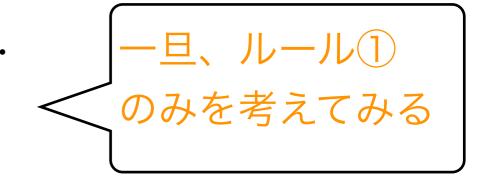
$$1 \le n \le 100$$

$$1 \le k \le 10$$



問題概要

- 1 から $2 \times n$ までの整数をグリッドに書き込む.
- ・以下の二つのルールを守る必要がある.
 - 1 図のような不等式を満たす
 - ② 隣り合う整数の差を k 以下にする

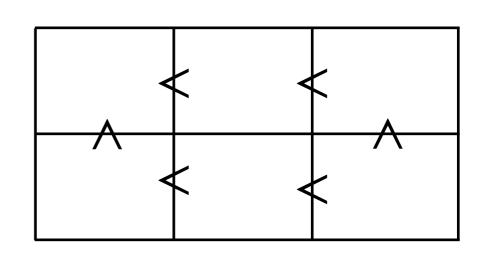


・ 整数の書き込み方は全部で何通りか?

[制約]

$$1 \le n \le 100$$

$$1 \le k \le 10$$



n=3 の例

/ :次ステップで書き込める場所

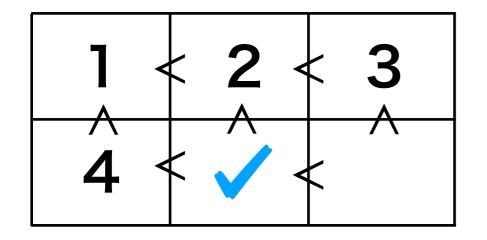
整数を 1 から順番に, 隙間ができないように, 下段が上段を超えないように書き込む. 2 3 3 3 4

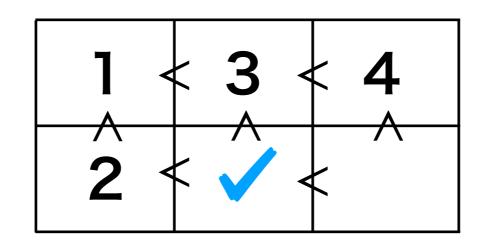
考察(1/2)

- 条件①だけの問題なら、
 - dp[i][j] := 整数 i まで書き込み済みで、

上段が j 個埋まっている時の通り数

で $O(n^2)$ でこの問題が解ける.





- 1 図のような不等式を満たす
- ② 隣り合う整数の差をk以下にする

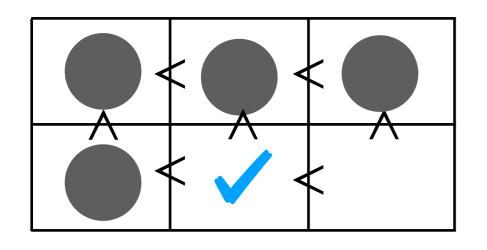
考察(1/2)

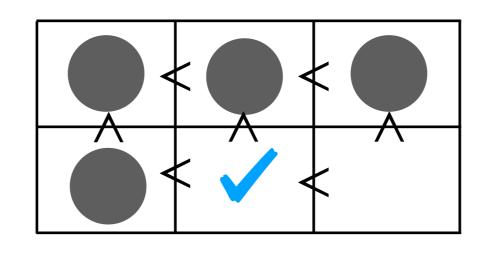
- 条件①だけの問題なら、
- dp[i][j] := 整数 i まで書き込み済みで、
 - 上段が j 個埋まっている時の通り数

で $O(n^2)$ でこの問題が解ける.

状態をまとめることができる

満たす





dp[4][3] に対応

図のような不等式を

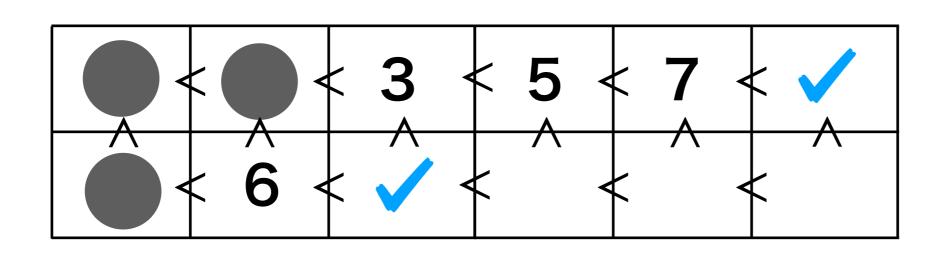
隣り合う整数の差を

k以下にする

考察(2/2)

条件②を考慮するには、
今後,隣り合う可能性のあるマスを
覚えておく必要がある。

- 図のような不等式を 満たす
- ② 隣り合う整数の差をk 以下にする



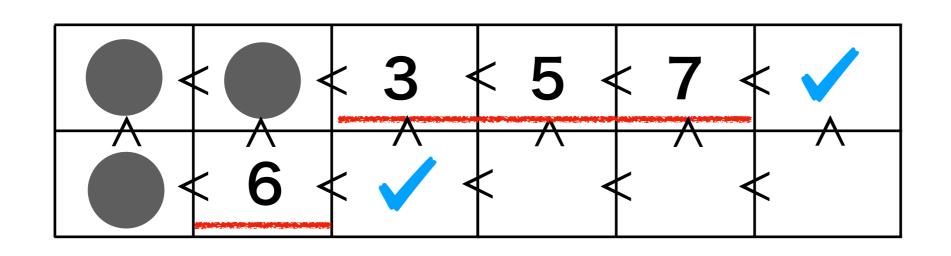
n=6 の例

考察(2/2)

条件②を考慮するには、今後,隣り合う可能性のあるマスを覚えておく必要がある。

- 図のような不等式を 満たす
- ② 隣り合う整数の差をk 以下にする

<u>赤色の波線部分の状態を覚えて</u> DP をすれば良い

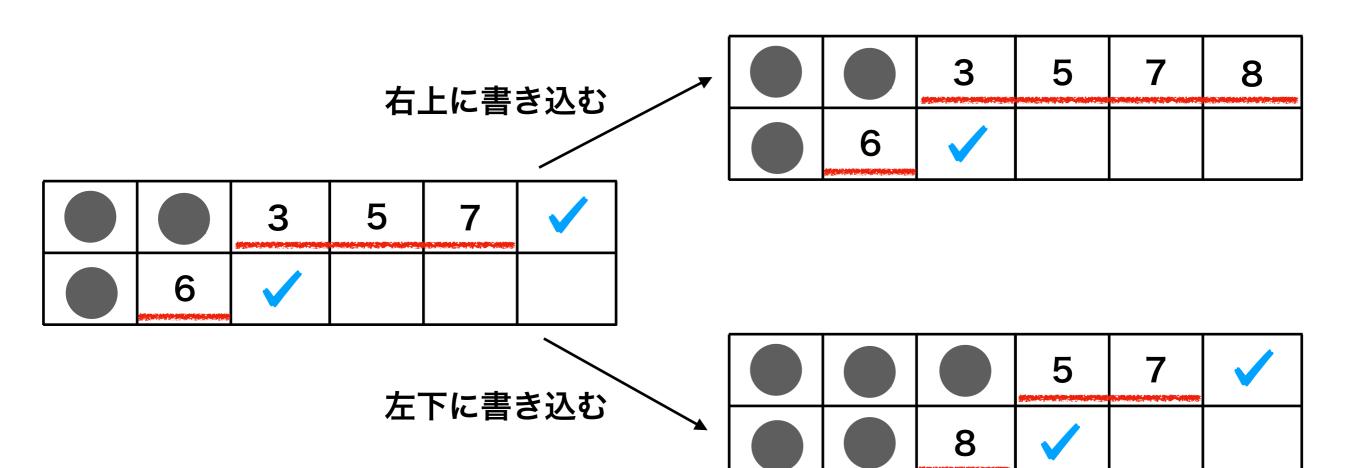


n=6 の例

想定解法

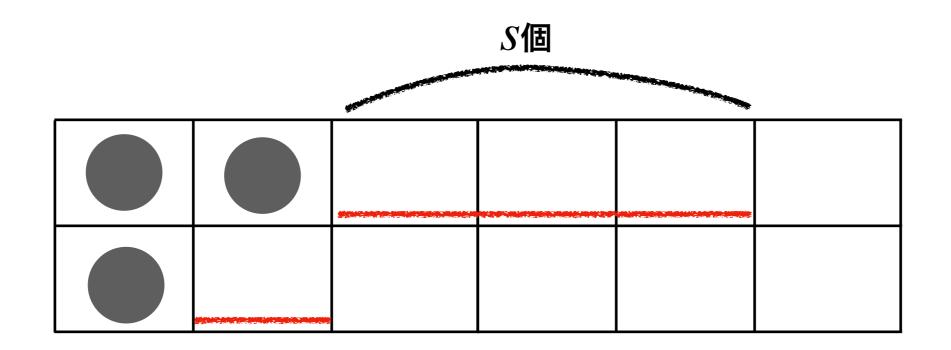
dp[i][state] := 整数 i まで書き込み済みで、

赤波線部分が state な時の通り数.



計算量解析

- 次に置く整数を i とする.
- 上段と下段に置かれている整数の個数の差をsと置く.
- 赤線部分に置かれる整数は i-k から i-1 までの k 種類.
- さらに上段の赤線部分には昇順に置くことを踏まえると、 状態数は k-1 $C_s \times (s+1)$ となる.



計算量解析

よって i を固定した時の状態数の総和は

$$\sum_{s=0}^{k-1} k - 1C_s \times (s+1) < k \sum_{s=0}^{k-1} k - 1C_s = k \times 2^{k-1}$$

で押さえられる.

• DP の遷移は定数回であるので、 アルゴリズム全体の時間計算量は $O(nk2^k)$ となる.

Writer解

- monkukui (C++) 90 行
- Tsuta_J (C++) 106 行
- Tsuta_J (python) 90 行
- TAB (C++) 45 行
- kazu (C++) 107 行

提出状況

• On-site: honunokoibito (120:23)

• On-line: ICPC_MockaidoUniv (81:49)

• **18/85** (**21.17**%)